

令和3年度入学生用カリキュラムマップ

【健康生命薬科学科】

| 科目番号 | 科目名 | 学年 | 科目目的 | 到達目標 | ディプロマ・ポリシーの項目番号 | | | | | | | | | | |
|------------|-----------------|-----|---|--|---|-----|-----|----------|---|--|-----------------|---|---|---|---|
| | | | | | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 | | | | | | | | | | |
| | | | | | 1. 知識・理解 | | | 2. 技能・表現 | | | 3. 思考・判断/態度・志向性 | | | | |
| 1-1 | 1-2 | 1-3 | 2-1 | 2-2 | 2-3 | 3-1 | 3-2 | 3-3 | | | | | | | |
| 21UHBS1001 | 初期演習Ⅰ | 1 | 本学で修得すべきことは何かを理解し、自主的に学び新たな発見を導きだせる力を身につけることを目的とする。このため、本学の「立学の精神」「教育目標」を知り、本学学生としての誇りと自覚を持つ。さらに、主体性・論理性・実行力を培い、女性として有為な社会人となるために、それぞれの学部学科の専門性に基づく知識と社会人基礎力の修得の必要性を理解し、各自のキャリアパスを自ら構築する。 | 大学の修学の基礎となる単位制を理解し、適切な履修計画に沿って修学する主体性、考える力を身につけ、所属学科の3つのポリシーに基づく専門教育の概要を把握し、自らのキャリアパスを組み立てる力を身につける。また、良識ある社会人となるための社会人基礎力の必要性を理解し、その基盤となる十分なコミュニケーション能力を培い、基本的な社会ルールを理解し、本学学生としての誇りと自覚を身につける。さらに、学習・研究を進める上での倫理の基礎となる情報の取扱いに関する知識を身につける。 | | ○ | ○ | | | | | ○ | ○ | ○ | |
| 21UHBS1002 | 初期演習Ⅱ（薬科学への第一歩） | 1 | 「初期演習Ⅰ」の科目目的を継続するとともに、薬科学の専門領域への導入として、薬科学が高校までの学習内容を基盤として体系化されている学問領域であることを理解し、社会において薬科学が果たしている責任と薬科学によってもたらされる恩恵に触れ、自主的に学び新たな発見を導き出せる力を涵養することを目的とする。 | 1) 適切な履修計画に沿って修学する主体性、考える力を身につける。 2) 薬学部健康生命薬科学科の3つのポリシー（専門教育の前提となる基礎学力、カリキュラム構成、卒業要件）を理解し、それに基づく専門教育を学ぶことでキャリアパスを組み立てる力を身につける。 3) 薬科学と高校までの理科・数学との関連性を理解し、薬科学が社会で果たしている役割に触れ、将来、薬と健康の科学者として活躍しようとする意欲を身につける。 4) 良識ある社会人となるための基礎として、学生生活を円滑に進めるための基本的なルールを理解し、本学学生としての誇りと自覚を身につける。 5) 社会人基礎力を身につけるために必要となる専門教育以外の学びの必要性を理解する。 6) 社会人基礎力の基盤となる十分なコミュニケーション能力（聞く、話す、読む、書く）を身につける。 | | | ○ | ○ | | | | | ○ | ○ | ○ |
| 21UHBS1003 | 健康生命薬科学概論 | 1 | 薬学の学問とは何か、日本および世界の医療と科学の進展を薬学の学問がどれだけ支えてきたかなど、薬学部卒業生が薬剤師以外に多様な領域で社会貢献してきた歴史事実を学習する。そして、将来、技術者、科学者として活躍するために、健康生命薬科学で学習する科目やその内容の知識を深めることを目的とする。 | 医薬品の創製に関わる基礎科学（生命科学、薬学、医学）の進展、変遷を理解するとともに、個々の事例を理解して、薬学の知識、技能が医薬品等の研究や開発のために総合的に活用されていることを理解する能力の修得を目標とする。 | ○ | ○ | ◎ | | | | | ◎ | ◎ | ○ | |
| 21UHBS1004 | 実験基礎 | 1 | 学習に対するモチベーションを高め、今後の実習に対応することを目的に、薬学部生として、また薬の科学者として必要な実験に関する基礎的知識と技能を修得する。 | 1) 実験倫理、データの取り扱い、実験動物の扱いについて学び、倫理観を身につける。 2) 物理・化学・生物実験に必要な知識（水、緩衝液、濃度計算、分析器具の種類と使用目的など）を学び、説明できるようになる。 3) 化学物質の合成・精製、成分分析や定量など物理・化学・生物に関する基礎的な実験を原理を理解して行い、基本技術を活用できるようになる。 | | | ○ | ○ | ○ | | ◎ | | ○ | | |

| 科目番号 | 科目名 | 学年 | 科目目的 | 到達目標 | ディプロマ・ポリシーの項目番号 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------|--------|-----|--|--|---|-----|-----|----------|--|--|-----------------|--|--|--|--|--|--|--|---|---|---|---|
| | | | | | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | 1. 知識・理解 | | | 2. 技能・表現 | | | 3. 思考・判断/態度・志向性 | | | | | | | | | | | |
| 1-1 | 1-2 | 1-3 | 2-1 | 2-2 | 2-3 | 3-1 | 3-2 | 3-3 | | | | | | | | | | | | | | |
| 21UHBS2202 | 地学 | 2 | 地球の変動、宇宙の構成に関する事物・現象についての知識を修得し、人間の生存の場としての地球環境の保全や解き明かされる宇宙についての認識を深めることを目的とする。本科目は、中高教科理科を教授するに足る基礎的知識および技能を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。 | 1) 地学についての専門的な知識を修得する。 2) 教職課程履修学生は、学習内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。 | ◎ | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 21UHBS1203 | 薬学化学I | 1 | 薬学を学ぶ上で必要な化学の基礎力を身につけるために、無機物質の性質と利用を含む化学分野に関する基本的知識と技能を修得する。本科目は、中高教科理科を教授するに足る基礎的知識および技能を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。 | 1) 高校化学で学習した知識の再確認および復習により、薬学化学を学んでいく上での基礎学力を身につける。 2) 溶液の濃度計算を中心に化学の基本的な計算ができる。 3) 放射化学および放射性医薬品の基礎的内容が理解できる。 4) 教職課程履修学生は、学習内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。 | ◎ | | | | | | | | | | | | | | ○ | | | |
| 21UHBS1204 | 基礎物理化学 | 1 | 医薬品の体内動態や安定性、体内で起こる生理的あるいは病的現象を理解する際には、物理化学的な視点が必要である。本講では、薬学で必要となる物理化学に関する基礎的な内容を学習することを目標とする。本科目は、中高教科理科を教授するに足る基礎的知識および技能を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。 | 1) 物質間の相互作用に関する基礎的知識を身につける。 2) 物質の変化を速度論的に取り扱うために必要な基礎的知識を身につけるとともに、その検証に必要な数学的スキルを身につける。 3) 溶液の性質や物理平衡に関する基礎的知識を身につける。 4) 教職課程履修学生は、学習内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。 | ◎ | | | | | | | | | | | | | | ◎ | ○ | | |
| 21UHBS2205 | 応用物理化学 | 2 | 基礎物理化学の学習内容をさらに深め、薬学や生命科学を研究する上で必要な物理化学的知識と技能を修得することを目的とする。本科目は、中高教科理科を教授するに足る基礎的知識および技能を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。 | 1) 化学熱力学、物質の変化や溶液の性質などに関する基礎的な事柄の理論的背景が説明できる。 2) 化学熱力学、物質の変化や溶液の性質などに関する基礎的な具体例について、数値の計算ができる。 3) 教職課程履修学生は、学習内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。 | ◎ | | | | | | | | | | | | | | | ○ | | |
| 21UHBS1206 | 基礎分析化学 | 1 | 医薬品（化学物質を含む）を適切に分析できるようになるために、溶液中の化学平衡に関する基本的事項を修得することを目的とする。本科目は、中高教科理科を教授するに足る基礎的知識および技能を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。 | 1) 溶液中の酸・塩基平衡の概念について説明できる。 2) pHおよび解離定数について説明できる。 3) 溶液中の化学平衡（錯体・キレート生成平衡、沈殿平衡、酸化還元平衡）について説明できる。 4) 教職課程履修学生は、学習内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。 | ◎ | | | | | | | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ |
| 21UHBS2207 | 応用分析化学 | 2 | 医薬品（化学物質を含む）を適切に分析できるようになるために、化学的定量法と分離分析法の基本的事項を修得することを目的とする。本科目は、中高教科理科を教授するに足る基礎的知識および技能を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。 | 1) 医薬品の化学的定量法（容量分析法、重量分析法）について説明できる。 2) 容量分析法のうち、中和滴定、非水滴定、キレート滴定、沈殿滴定、酸化還元滴定について説明できる。 3) 分離分析法（クロマトグラフィー、電気泳動法）について説明できる。 4) 教職課程履修学生は、学習内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。 | ◎ | | | | | | | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ |

| 科目番号 | 科目名 | 学年 | 科目目的 | 到達目標 | ディプロマ・ポリシーの項目番号 | | | | | | | | | | | | | | |
|------------|--------------|----|---|--|---|-----|-----|----------|-----|-----|-----------------|-----|-----|---|--|--|--|--|--|
| | | | | | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | 1. 知識・理解 | | | 2. 技能・表現 | | | 3. 思考・判断/態度・志向性 | | | | | | | | |
| | | | | | 1-1 | 1-2 | 1-3 | 2-1 | 2-2 | 2-3 | 3-1 | 3-2 | 3-3 | | | | | | |
| 21UHBS2208 | 機器分析学 | 2 | 医薬品（化学物質を含む）を適切に分析できるようになるために、機器分析法の原理と操作法の基本的事項を修得するとともに、将来実際に自然科学・生命科学・応用科学の分野で活躍するために、これらの基本的知識の修得が極めて重要であることを理解する。 | 1) 分光分析法（紫外可視吸光度測定法、蛍光光度法、赤外吸収スペクトル測定法、原子吸光光度法、発光分光分析法）の原理および応用例を説明できる。 2) 核磁気共鳴スペクトル測定法、質量分析法、X線分析法、熱分析法の原理および応用例を説明できる。 3) 免疫化学的測定法の原理を説明できる。 4) 分析目的に即した試料の前処理法を説明できるとともに、臨床分析における精度管理および標準物質について説明できる。 5) 臨床試験や製薬企業といった分野において、本科目で学ぶ分析手法が実際にどのように活用・応用されているかを理解する。 | ◎ | | | ○ | | ○ | | ○ | | | | | | | |
| 21UHBS3209 | バイオメディカル分析化学 | 3 | 生体の状態およびその変化を物理化学的視点から把握することは、生体分析技術の利用や開発に重要であると同時に、新しい診断法や治療法の糸口となり得る。本科目では、生物物理化学および生体分析化学の基礎を理解するとともに、実社会での応用例を通して、大学で学ぶ物理系薬学のライフサイエンスへの展開を考えることを目的とする。 | 1) 生体分子の物理化学的性質と生体の状態とが密接に関係していることに触れ、生物物理化学の基礎を修得する。 2) 生体分子の物理化学的性質に着目し、生体の状態を把握するための方法を考察し、生体分析化学の基礎を修得する。 3) 現代の生体分析技術の応用例に触れ、物理系薬学への関心を拡大させ、それを薬学、化粧品学、ライフサイエンス全般に展開する意欲を身につける。 | ◎ | ○ | ○ | | | | | ◎ | ◎ | ○ | | | | | |
| 21UHBS1210 | 基礎有機化学 | 1 | 薬学の基礎である有機化合物（医薬品や生理活性化合物）の性質や反応性を理解するために必要となる、基本的な「有機化学の知識」を修得することを目的としている。本科目は、中高教科理科を教授するに足る基礎的知識および技能を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。 | 1) 化学結合、軌道の混成、共役や共鳴について説明できる。 2) 代表的な化合物のルイス構造式および慣用名を示すことができ、IUPAC規則に基づいて命名することができる。 3) 酸と塩基、および官能基が及ぼす影響について説明できる。 4) アルカンやシクロアルカンの配座、および構造異性体と立体異性体について説明できる。 5) 光学活性・キラリティー・エナンチオマー・ジアステレオマー・ラセミ体・メソ体・絶対配置の表示法等について説明できる。 6) 教職課程履修学生は、学習内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。 | ◎ | | | | | | | ○ | | | | | | | |
| 21UHBS2211 | 応用有機化学Ⅰ | 2 | 有機化合物の化学的性質を特徴づけている官能基についての基礎知識を習得する。また、その合成法や反応性についても習得する。本科目は、中高教科理科を教授するに足る基礎的知識および技能を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。 | 1) 有機化合物の基本的な命名法や化学的性質を習得し、代表的な有機化学反応の反応機構を理解する。有機化学について最少の暗記で多くの反応の理解ができるように応用力を身につける。 2) 教職課程履修学生は、学習内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。 | ◎ | | | | | | | | ○ | | | | | | |
| 21UHBS2212 | 応用有機化学Ⅱ | 2 | 有機合成化学において特徴的な官能基の性質およびそれらの導入法・変換法を習得することで、有機化合物の物理的・化学的性質および反応性を、化合物の構造から類推できる能力を身につけることを目的とする。 | 1) 有機化合物の一般的性質および反応性を、化学構造およびそれらが有する官能基をもとに説明できる。 2) 官能基特有の反応性を系統的に理解し、基本的な反応の反応機構を説明できる。 3) 酸性化合物の酸性度および塩基性化合物の塩基性度を比較して説明できる。 | ◎ | | | ○ | | ○ | | ○ | | | | | | | |

| 科目番号 | 科目名 | 学年 | 科目目的 | 到達目標 | ディプロマ・ポリシーの項目番号 | | | | | | | | | |
|------------|--------|-----|---|---|---|-----|-----|----------|--|--|-----------------|--|---|---|
| | | | | | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 | | | | | | | | | |
| | | | | | 1. 知識・理解 | | | 2. 技能・表現 | | | 3. 思考・判断/態度・志向性 | | | |
| 1-1 | 1-2 | 1-3 | 2-1 | 2-2 | 2-3 | 3-1 | 3-2 | 3-3 | | | | | | |
| 21UHBS3243 | 臨床化粧品学 | 3 | 皮膚や毛髪など外観に損傷や障害を負った人の社会復帰やQOL (quality of life: 生活の質) 向上のために、美容と医療が果たす役割について学ぶ科目である。メディカルメイクなどの分野で活躍している講師による具体的な講義を通して、美容的ケアを多面的に理解するとともに、実践する力を身につけることを目的とする。 | 皮膚や毛髪など外観に損傷や障害を負った人の状況を理解するとともに寄り添う気持ちを養い、社会復帰やQOL (quality of life: 生活の質) 向上のため、美容と医療が果たす役割について理解することを基本的な目標とする。そして、多様な美容的ケアを修得するとともに、それを実践できることを最終目標とする。 | ◎ | | | | | | | | ○ | ○ |
| 21UHBS3244 | 応用化粧品学 | 3 | 化粧品は、化粧品をする本人の心理、化粧品をした他者の顔を見る人の心理、人間関係の心理に影響を及ぼす。このような化粧品に対する心理を実験心理学の知見に基づき学習する。アロマセラピーとは、植物の各部位から抽出した精油を使用し、心身の不調を和らげ健康を回復する自然療法であることを理解し、実践する能力を身につける。 | 脳が顔を知覚する仕組み、顔の魅力を高める諸要因、化粧品で顔が変わって見える仕組み、化粧品と魅力が人物評価や人間関係に及ぼす影響などに関して理解する。アロマセラピストは、薬用植物学や天然医薬品化学で学習した精油 (エッセンシャルオイル) の知識や、解剖生理学や皮膚科学の知識を活用して、介護や医療の現場においてアロマセラピートリートメントやコンサルテーションを実施することができる資格である。このためには、まずアロマセラピー検定1級に合格することが必要であり、授業ではこの検定の合格を目指す。 | ◎ | | | | | | | | ○ | ○ |
| 21UHBS3245 | 臨床検査総論 | 3 | 医療の高度化につれ、様々な臨床検査法が開発されてきている。それとともに疾病の診断や病状把握、治療効果などに重要な位置を占めてきている。このような臨床検査の持つ意味を正しく理解し、より適切な検査を実践するための基本的な知識を修得することを目的とする。 | 臨床検査の持つ意味とその限界について検討をおこなう。さらに著しく増加した検査法のうち、基本的かつ重要なものを抜粋し、その意味を把握できる。また、検査の精度管理や基準値の意味について理解できる。 | ◎ | | | | | | | | ○ | ○ |
| 21UHBS3246 | 臨床免疫学 | 3 | 代表的な自己免疫性疾患について、その症状、症候、病因、病態、治療、予後などについて理解することを目的とする。 | 1) ヒトにはどのような自己免疫性疾患があり、どのような原因でどの器管系におこるのか説明できる。 2) 頻度や重要度の高い自己免疫疾病について、その症状、症候、病態、治療、予後などについて概説できる。 | ◎ | | | | | | | | ◎ | ◎ |
| 21UHBS3247 | 脳神経科学 | 3 | 脳は膨大な数の神経細胞からなる身体の中で最も複雑な臓器である。脳の構造的・機能的異常が脳神経疾患と関連していると想定される。本講では、まず、脳の多様な構造と機能、神経シグナル伝達、神経回路の制御など基礎的知識を理解し、ついで、代表的な脳神経疾患について症状、病因、病態生理、発症メカニズムおよび治療薬について学習することを目的とする。 | 脳の神経系の基本的機能を習得し、その異常で起こる主な病気の症状、病因、病態生理を理解した上で、適切な治療薬の選択について説明できることを最終目標とする。 | ◎ | | | | | | | | ○ | |
| 21UHBS3248 | 腫瘍生物学 | 3 | 現在、わが国の最多死亡原因であるがんについて、その成り立ちから遠隔臓器への転移まで、さらには各種がんの治療法までを学習することを目的とする。 | 自然科学分野における研究者を志す学生に対して、がんの成り立ちから遠隔臓器への転移まで、さらには各種がんの治療法までの幅広い知識を習得し、主要な概念について説明できることを最終目標とする。 | ◎ | | | | | | | | ○ | |
| 21UHBS3249 | 医薬品開発論 | 3 | 医薬品開発に参画できるようになるために、医薬品開発の各プロセス、法令等に関する基本的知識を習得する。 | 1) 医薬品開発の各プロセスの実施概要、関連法規、倫理について説明できる。 2) レギュラトリーサイエンスの概要について説明できる。 3) 代表的な薬害について、原因、対策について説明できる。 4) 先端的な医薬品開発について説明できる。 | ◎ | ○ | ○ | | | | | | | ○ |

| 科目番号 | 科目名 | 学年 | 科目目的 | 到達目標 | ディプロマ・ポリシーの項目番号 | | | | | | | | | |
|------------|---------|-----|--|--|---|-----|-----|----------|---|---|-----------------|---|---|--|
| | | | | | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 | | | | | | | | | |
| | | | | | 1. 知識・理解 | | | 2. 技能・表現 | | | 3. 思考・判断/態度・志向性 | | | |
| 1-1 | 1-2 | 1-3 | 2-1 | 2-2 | 2-3 | 3-1 | 3-2 | 3-3 | | | | | | |
| 21UHBS3250 | 化粧品開発論 | 3 | これまで学んだ化粧品関連の知識を活用し実際に化粧品を企画する。 | 市場調査をもとに新商品の企画を立案し、その商品をPRするための有効性、安全性の試験を考える。最終段階として商品宣伝のプレゼンテーションを行うまでの一連の開発業務を体験する。 | ◎ | ○ | ◎ | | ◎ | | ◎ | ◎ | ○ | |
| 21UHBS1251 | 保健食品機能学 | 1 | 科学的根拠に基づいた健康食品の使用法について理解し、健康食品を安全に効果的に使用する考え方を養うことを目的とする。 | 健康食品の現状と問題点を理解した上で、健康食品に対する科学的根拠に基づいた適正な判断・使用方法について説明できることを最終目標とする。 | ◎ | | | | | | ○ | | | |
| 21UHBS3252 | 健康サポート論 | 3 | 一般用医薬品の適正使用に向けて、薬局の機能・業務、薬局内の職務について理解することを目的とする。 | 1) 一般用医薬品に関連する法令の内容を説明できる。 2) 地域住民のセルフメディケーションのために薬局が果たすべき役割を説明できる。 3) おもな一般用医薬品を列挙し、使用目的を説明できる。 | ◎ | ○ | ○ | | | | ◎ | ○ | | |
| 21UHBS1253 | 統合医療概論 | 1 | 現代医療との関わりの中で、代替・相補(補完)・伝統そして総体である統合医療(CAM)について、その概念を学ぶことを目的とする。 | 現在、わが国で施療されている統合医療を構成する主なものの施療思想について理解できる。その施療内容の科学的な妥当性について評価できる。 | ◎ | | | | | | ○ | ○ | | |
| 21UHBS3254 | 薬事関係法規 | 3 | 臨床試験(治験)を法令に遵守して適切に実施できるようになるため、薬事関係法規、GCPなどの法令および制度に関する基本的知識を修得することを目的とする。 | 1) 治験全般に関連する法規制に関する知識を身につける。 2) 治験依頼者の立場から、治験の各場面に関わる法規制に関する知識を身につける。 3) 治験実施医療機関の立場から、治験の各場面に関わる法規制に関する知識を身につける。 | ◎ | ◎ | | ○ | | | | ○ | | |
| 21UHBS3255 | 医薬品情報学 | 3 | 医薬品開発から市販後までの主なプロセスとそれに伴う医薬データの評価について基本的事項を修得し、医薬品情報の全体像を把握することにより、医薬品の適正使用に必要な情報を理解することを目的とする。 | 創薬から薬物治療に至る各過程において、より有効で安全な治療や予防実現に向けたアプローチの考案・実行に必要な臨床試験の研究手法と統計解析手法に関する基礎的な知識と技能を習得する。さらに、薬物治療において、必要となる様々な情報を適切に収集、評価、加工、管理し、これを医療チームや患者に対して過不足なく的確に提供するために必要な基本的知識を習得する。 | ◎ | ○ | | ◎ | ○ | ◎ | ○ | ○ | | |
| 21UHBS2256 | 物理学実験 | 2 | 物理学の基本的事項を理解し、自然現象について物理法則を用いて説明することが出来、さらに、測定器の原理や取り扱い方を学び、実際に活用できることを目標とする。本科目は、中高教科理科を教授するに足る基礎的知識および技能を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。 | 1) 測定機器の正しい取り扱いができる。 2) 測定データの分析を行うためのグラフや表を作成し得られた結果を客観的に考察できる。 3) 実験内容を正確に伝える報告書を作成できる。 4) 実験を通して測定原理を理解する。 5) 教職課程履修学生は、学習内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。 | | | | | ◎ | ◎ | | | | |
| 21UHBS2257 | 地学実験 | 2 | 地学は、生徒が興味・関心を持ち、主体的に問題解決を図り、知識・技能とともに科学的地球観・宇宙観が身につくものでなければならない。そのため、学生自身が観察、実験、実習を体験し、資料の整理・考察を行い、専門的な知識と技能等を修得することを目的とする。本科目は、中高教科理科を教授するに足る基礎的知識および技能を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。 | 1) 地学の内容を実験を通して理解し、専門的な知識を修得する。 2) 地学実験の正確な操作技能と考察力を修得する。 3) 主体的・協同的に観察・実験・実習を行う態度を修得する。 4) 既習の知識・技能を基に課題を創意工夫して解決する能力を修得する。 5) 教職課程履修学生は、学習内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。 | | | | | ◎ | ◎ | | | | |
| 21UHBS1258 | 臨地体験学習 | 1 | 健康生命薬科学科学生として学習に対するモチベーションを高めるために、公的試験研究機関および企業バイオ関連研究所などの見学を通じて健康生命薬学の基礎実習を体験する。 | 1) 大学4年間での学習に関する態度を身につける。 2) 実験の基本操作など理解する。 3) 卒業後の活躍分野をみる。 | | ○ | ◎ | | | | | ○ | ○ | |

| 科目番号 | 科目名 | 学年 | 科目目的 | 到達目標 | ディプロマ・ポリシーの項目番号 | | | | | | | | | | | | | |
|------------|----------|-----|--|---|---|-----|-----|----------|---|---|-----------------|---|---|--|--|--|--|--|
| | | | | | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | 1. 知識・理解 | | | 2. 技能・表現 | | | 3. 思考・判断/態度・志向性 | | | | | | | |
| 1-1 | 1-2 | 1-3 | 2-1 | 2-2 | 2-3 | 3-1 | 3-2 | 3-3 | | | | | | | | | | |
| 21UHBS1259 | 早期体験学習 | 1 | 生命科学、創薬科学、化粧品科学等の領域において、基礎学問が研究に如何に関わっているのかを実体験を通して理解することにより、これらの領域への関心を育むとともに、健康生命薬科学科学生として学習に対する意欲を高める。 | 1) 大学4年間の学習に対する意欲と態度を身につける。 2) 生命科学、創薬科学、化粧品科学等の領域への関心を育む。 | | ○ | ◎ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | |
| 21UHBS1260 | 創薬体験学習Ⅰ | 1 | 医薬品が開発されてきた背景を知るとともに、アスピリンを題材として実際にその合成および定性・定量を行い、化学物質としての医薬品を学術分野横断的にとらえ、その重要性を総合的に理解することを目的とする。 | 1) 創薬の過程を知り、その重要性を理解する。 2) 化学物質を扱う実験の基本操作を理解する。 3) 化学物質の定性分析法、定量分析法を理解する。 4) 薬物の薬理作用や副作用、作用機序を理解する。 | ◎ | | ◎ | ◎ | | ◎ | | | | | | | | |
| 21UHBS2261 | 創薬体験学習Ⅱ | 2 | 開発された医薬品を用いて、その薬理作用・作用機序や副作用を動物または培養細胞を用いて検討することで、医薬品を学術分野横断的にとらえ、その有効性を総合的に理解することを目的とする。 | 1) 動物または培養細胞の取り扱いの基本操作を理解する。 2) 医薬品の作用を定性・定量する生物学的方法の原理を理解する。 3) 医薬品の薬理作用や副作用、作用機序を理解する。 4) 実験結果をもとに医薬品の有効性を判定する。 | ◎ | | ◎ | ◎ | | ◎ | | | | | | | | |
| 21UHBS2262 | 基礎有機化学実験 | 2 | 化学実験の基本操作を修得する。また、化学実験を通して化学物質に触れ、化学的性質を知り、正しい取り扱い方法を学ぶ。本科目は、中高教科理科を教授するに足る基礎的知識および技能を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。 | 1) 実験操作書に従って正しく実験装置を組み立て、自ら化学物質の変換反応を実施し、正しく生成物を取り扱い、得られた結果をまとめて考察できるようにする。 2) 教職課程履修学生は、学習内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。 | ◎ | | | ◎ | | ◎ | | | | | | | | |
| 21UHBS2263 | 生化学実験Ⅰ | 2 | 生命現象を細胞レベル、分子レベルで理解できるようになるために、実験を通して生体を構成する分子や身体をまもる免疫反応の基本事項を修得することを目的とする。本科目は、中高教科理科を教授するに足る基礎的知識および技能を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。 | 1) 生体構成分子であるアミノ酸、タンパク質、糖質、脂質、核酸の定性または定量試験を実施できる。 2) 酵素反応速度を測定し、解析できる。 3) 抗原抗体反応を利用した検査方法を実施できる。 4) 教職課程履修学生は、学習内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。 | | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | | | | | | | |
| 21UHBS2264 | 化粧品学実験 | 2 | 化粧品を実際に作ることで、より深く化粧品を理解する。 | 種類の違う化粧品を構成する特徴的な成分を知り、化粧品の原料とその特性を理解する。 | | ○ | ◎ | ◎ | | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | | | | | |
| 21UHBS3265 | 分析化学実験 | 3 | 医薬品（化学物質を含む）を適切に分析できるようになるために、分析器具の取り扱い方法、化学物質の定性分析法、定量分析法および分離分析法の技能を修得することを目的とする。本科目は、中高教科理科を教授するに足る基礎的知識および技能を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。 | 1) 陽イオンおよび陰イオンの定性分析を実施できる。 2) 代表的な医薬品の容量分析を実施できる。 3) 溶液のpHを測定できるとともに、緩衝液を調製できる。 4) 代表的な医薬品のクロマトグラフィーによる定性・定量ができる。 5) 教職課程履修学生は、学習内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。 | ◎ | | | ○ | | ○ | ○ | | | | | | | |
| 21UHBS3266 | 解剖生理学実験 | 3 | 生体の構造と機能を統合的に理解することを目的とする。また、生命に対する倫理的な姿勢を養う。本科目は、中高教科理科を教授するに足る基礎的知識および技能を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。 | 1) 生体を構成する器官の立体的位置関係を把握し、その構造と組織・細胞を関連づけて説明できる。 2) 器官の生理的機能について、生体における役割と調節機構を体系的に説明できる。 3) 教職課程履修学生は、学習内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。 | ○ | | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | | | | | | | |

| 科目番号 | 科目名 | 学年 | 科目目的 | 到達目標 | ディプロマ・ポリシーの項目番号 | | | | | | | | | | | | |
|------------|-----------|----|---|---|---|-----|-----|----------|-----|-----|-----------------|-----|-----|---|--|--|--|
| | | | | | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | 1. 知識・理解 | | | 2. 技能・表現 | | | 3. 思考・判断/態度・志向性 | | | | | | |
| | | | | | 1-1 | 1-2 | 1-3 | 2-1 | 2-2 | 2-3 | 3-1 | 3-2 | 3-3 | | | | |
| 21UHBS3267 | 衛生薬学実験 | 3 | 生活に密着した環境衛生・公衆衛生関連分野で活躍するためには、講義で学んだ知識が、頭の中だけ、机の上だけに放置されてはいけない。講義で学んだことを実際に実験で確かめ、知識を確固としたものにするを目的とする。 | 微生物の取り扱い方法、核酸の取り扱い方法、中毒原因物質の分析法、水の分析法、室内環境の分析法、食品の変質試験法、食品添加物の分析法などの基本的技能を身につけている。 | | | | | | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | | | | |
| 21UHBS3268 | 薬理学実験 | 3 | 薬理学の講義で学習した薬物に関する知識を、動物実験を通して実際に確かめることを目的とする。 | 薬物の薬理作用、副作用およびそれらの作用機序を修得することにより、薬物を総合的に理解できることを最終目標とする。 | ○ | | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | | | | | | |
| 21UHBS3269 | 薬剤学実験 | 3 | 製剤化の方法と意義、ならびに薬物動態の理論的解析に関する基礎的スキルを修得する。 | 製剤化の意義と製剤の性質を理解するために、薬物と製剤材料の物性、製剤設計に関する基本的事項を修得するとともに、薬物の体内動態およびその解析に関する基本的知識を修得し、それらを応用する基本的スキルをも修得する。 | ◎ | | | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | | | | | | |
| 21UHBS2270 | 基礎薬学英語演習 | 2 | 本演習は、薬剤師・研究者としてグローバルに活躍するための国際感覚を養成することを目的とし、英語力のレベルアップをはかることを目標とする。 | 1) 聞く、話す、読む、書く、というスキルを磨き、英語で自らの考えや感じたことを発信できる。 2) アメリカ文化を理解する。 3) アメリカの薬剤師・研究者の活躍分野を見て、海外における薬剤師や研究者の現状を理解する。 | ◎ | | | | ◎ | | | | | | | | |
| 21UHBS3271 | 卒業研究Ⅰ | 3 | 4年次の卒業研究をより効果的に学ぶために、早期に研究室に所属し、与えられた課題に取り組み、研究に必要な基礎的な知識・スキルを修得する。 | 与えられた実験課題を正確に把握し、的確な実験を行うために必要な知識とスキルを修得することを目標とする。 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | | |
| 21UHBS4272 | 卒業研究Ⅱ | 4 | 大学の重要な使命のひとつである研究活動の基本を理解するために、研究室に所属して与えられた研究課題に取り組み、研究の方法論、研究に必要な実験技術、研究結果のプレゼンテーション法などを修得する。 | 与えられた研究課題を正確に把握し、的確な実験とデータ解析を行う能力を養うこと、さらに発表と質疑応答の能力を修得することを目標とする。 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | |
| 21UHBS3302 | 健康科学Ⅱ | 3 | 健康で健全な生活を支えるには健康に関係する様々な分野の連携が必要である。この理解を深めるために3学科がそれぞれの専門分野の特性を提供し、3学科の学生が共同で健康科学に取り組み、知識を深めることを目的とする。 | 3学科の学生が共同で一つの課題を演習方式で研究を深め、健康への取り組みの多様性と他分野との連携の重要性に気付くことを目標とする。 | ○ | ○ | ○ | | ◎ | | | ○ | ○ | | | | |
| 21UHBS1401 | キャリアデザイン論 | 1 | 本講義では、臨床医工学・情報学の融合分野において、受講者が目指すキャリアを明確化してキャリアパスを設計し、実践的なスキルを獲得することで、社会で主体的に活躍できるようにすることを目的とする。 | ①臨床医工学・情報学の融合分野において、社会で活躍する外部講師の講演から、将来のキャリアパスをイメージし、具体的に組み立てることができる。 ②外部講師の講演から多様な働き方があることを認識し、ライフイベント（出産、育児、介護）と仕事の両立やキャリアを継続するために利用可能な制度等に関する知識を持つ。 ③受講生同士のディスカッションを通して、コミュニケーション能力や発信力・傾聴力などに代表される「社会人基礎力」を身につける。 | | | | | | ◎ | | | | ○ | | | |

